



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計334名

電話 831-0157



学校ホームページ

## モヤモヤする力の勧め ～より良い答えを求めて～

校長 土屋 智樹

私が、ある学級のプログラミングの授業を参観していた時のことです。「メッシュ」という教材を使って、歩行者用信号機のプログラムを作る授業でした。「青をつける」「赤をつける」「青を消す」などのブロックを組み合わせて、信号機のプログラムを作っていくものですが、どのブロックを使うのか、組み合わせる順番をどうするのかなど、グループで話し合いながらプログラムを考えていました。「ああでもない」「こうでもない」などと、白熱した議論を交わしながら、プログラムを作っていくグループもあれば、いいアイデアがなかなか出てこないため時間だけが過ぎていくグループなど様々です。私は、その中で、あるグループの話し合いの様子が気になりました。そのグループは、一通りプログラムを考えたのですが、どうもみんなしっくりとせず満足していない様子でした。その時、ある児童が口を開いて、「そうではなく、〇〇じゃないかな」などと自分の考えを話し始めました。仕切りなしに自分の考えを訴えているのですが、その子の考えをグループのみんなが理解できないためか、はたまた具体的なアイデアがないためか、なかなか聞き入れてもらえません。そうこうしているうちに、あっという間に1時間が経ち、授業が終わってしまいました。先生の話では、次の時間も続きを行うとのことでしたが、私が気になっていたグループの子ども達は、次週まで、モヤモヤとした気持ちで過ごすのだろうかと思いました。その時、私は、以前、NHKのクローズアップ現代の「モヤモヤする力」についての番組を視聴した時のことを思い出しました。



モヤモヤする力とは、答えの出ない事態に直面した時、すぐに結論を出さずにモヤモヤし続ける力だという考え方で、海外でも「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉で広がっているそうです。モヤモヤする力には、創造性・アイデアを伸ばす可能性がある。番組では、モヤモヤする力に秘められた可能性に、最新研究を交えて迫っていました。印象的だったのは、「より良い答えを出すために、これが答えだというのを保留する。もう少し考えてみようとか、違う考え方がないかなど、いろいろと広げて考える。思考停止に陥らないで、もっと考えてみよう。それがモヤモヤする力の効果だと思う。」という専門家の言葉でした。この言葉の通り、私も、モヤモヤする力の大切さを日々痛感しています。現代社会に生きる私たちは時間が限られていて、テキパキといろいろなことを決めていかなければなりません。しかし、すぐに決めてそれ以上考えないという思考停止に陥るのは、いろいろな可能性の芽を自ら摘み取ってしまうことになると思います。専門家が提唱していた「まずは、5分立ち止まってみる。思考停止するのではなく、モヤモヤしてみる。」を自分自身も実践していこうとその時心に決めたのでした。

プログラミングの授業でモヤモヤしていた子ども達は、この後、どんなことを考えるのでしょうか。あの時、私は、子ども達に「すぐに答えを出さなくてもいいんだよ。モヤモヤしながら、より良い答えを探し続けることが大切だよ。」と声を掛けられなかったことを後悔しています。効率を重視する風潮が強まる今こそ、迷いながらもより良い答えを求めて考え続けることの大切さを、子ども達に伝えていきたいと思いました。そして、あのグループの子ども達が、納得のいくプログラムを完成させることを願いつつ、この後も温かく子ども達を見守っていききたいと思います。

寒さも本格的になってきました。お元気でよい年をお迎えになりますようお祈り申し上げます。